

船橋福祉相談協議会

ニュース

(講演会・シンポジウム報告)



第31号

発行者 特定非営利活動法人
船橋福祉相談協議会 ふらっと船橋(事務局)
273-0021 船橋市海神 1-31-31 ジュネス海神 101
Tel 047-495-6777 Fax 047-495-6776
HP <http://flat-funabashi.com>
E-mail flat-funabashi@key.ocn.ne.jp

「どこまで実現、私の思い」

特定非営利活動法人
船橋福祉相談協議会
理事長 宮代 隆治

先日、表題をテーマとした講演会・シンポジウムを当協議会の主催により開催しました。

この国の障害福祉の流れを概観しながら、施策はどのように展開され、そして今日を迎えているのか。また、これからどこへ向かうとしているのか。

これらについての検証は、これから私たちの歩むべき道筋を教えてくださいませんか。

この国で本格的に障害者に対する施策が講じられたのは、戦後のことでした。福祉に関する各種法律が作られ、それに基づき具体的な施策が講じられました。障害種別により各々施設が作られていきます。私が障害福祉の世界に身を置いた半世紀ほど前は、全国に施設が次々とできました。高度経済成長が終末期を迎え、やっと福祉

にお金が回り始めた頃ではなかったでしょうか。

そして、施設を利用するにそのシステムは「措置制度」に支えられていました。措置は行政命令です。障害のあるAさんが〇〇園という施設を利用したいとき、役所の担当窓口を訪ね、利用の意思を伝えます。すると役所は該当の施設を探します。このとき、Aさんの希望は〇〇園だったのですが、その希望が叶う保証はありません。利用する施設を選定するのは、行政の職務になるのです。貴方は、何月何日から〇〇園に行きなさい、と。

この背景には、援助を求める障害のある人は、保護や救済の対象であり、同時に障害の除去や軽減に努めなさい。そして、社会に適応する能力を身に着け、復帰しなさい。その実現に寄与するのが行政の責務である。そんな障害者観が支配していた現実があったようです。

1981年は「国際障害者年」でした。テーマは「完全参加と平等」でした。特定の環境下における差別や偏見に苦しめられながら社会から隔離された存在の障害者、その人権を擁護し平等な社会の実現に世界中が取り組むことが国連で決議されました。

この頃、欧米から「ノーモライゼーション」の思想や伴う運動がこの国にもたらされ、私たちに障害の概念等の根本的な変革を迫りました。

2000年は社会福祉の「基礎構造改革」として、戦後の福祉制度が大きく変容しました。このことにより、「措置から契約」へ、障害福祉サービスの利用は、事業者と利用者の対等な関係による契約制度へと移行しました。つまり、障害者が事業者を選んで利用する、そんな主体性が担保されたのです。

また、2006年には「障害者権利条約」が国連で成立しまし

た。この批准に合わせ、「障害者虐待防止法」や「障害者差別解消法」が施行されました。そして、現行「総合支援法」には、基本理念として「国民は障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を有し、個人として尊重される。国民相互に人格と個性を尊重しながら共生社会を実現する(抜粋)」とあります。

時代は、障害のある人を社会を構成する一市民として、平等に権利と義務を共有する存在として、共に生活することが当然であり、その実現は私たちが構成する社会の責任である、と明言しているように思えます。

今回、その実現に主に船橋市内において様々な形で取り組む6名をシンポジストにお迎えしてその実践を拝聴し、テーマに即した思いを披露していただきました。障害のある方の思いが、必ず実現する社会でありますように、と耳を傾けた次第です。

「思いの実現に向けて」

船橋市健康福祉局長

川端 輝彦

11月に開催された、協議会主催の講演会・シンポジウム「どこまで実現、私の思い？」にお招きいただき、第一線で、障害がある方への支援等に携われ、活躍されている方々のお話を拝聴させていただきました。

講演者の宮代理事長、シンポジストの野口さん、佐賀さん、森井さん、荒木さん、小松さん、須崎さんのお話を、障害のある方や、日々、障害のある方の支援等に携わっている方など、多くの参加者の皆様とともに伺うことで、元氣や、ポジティブなエネルギーをいただきました。また、これほど多くの方が、熱心に、真摯に聴かれている姿に、船橋市の障害福祉関係者の力強さ・心強さを感じました。

本市の障害福祉に取り組む障害福祉課の仲間も参加させていただきました。

このような機会をいただきました主催者の協議会のスタッフの皆様をはじめ関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

第1部では、宮代理事長から、障害福祉行政の変遷についての講演がありました。もちろん、行政は、障害のある方、当事者、利用者の思いを中心に展開されるものですが、そこには、多くの関係者の「思い」もまつています。理事長からのお話を聞く過程で、これまでの様々な先輩、仲間の「思い」に、思いをはせることができました。

第2部では、シンポジストの皆様「思い」を聞かせていただきました。本人を知ること、本人のお考え、どのような生活を送りたいと思っているのかを理解すること、どうやったら本人の思いを実現できるのか

グループホームでの実践例や問題提起、当事者の声が政策に反映されること、などを通じて、様々なことを考え、学ばせていただきました。

当日もお伝えしましたが、行政としては、障害のある方、そのご家族、支援される方などを支援するために制度や政策を企画立案し、展開していきませんが、現実的には、制度があるゆえに課題や限界も生じます。第一線で奮闘されている皆様の日々の実践が、それを乗り越えられる原動力となりますし、もし、乗り越えられない場合、厳しい場合にはその旨をぜひご指摘いただいて、制度を改善していく、そして、地域などで、ご本人の安心した日常生活、社会生活を実現していくことができると考えています。本市としても、引き続き、より一層、皆様の思いを聴かせていただいて、ともに、障害福祉を進めていきたいと考えています。

「地域に福祉力を」

NPO法人

PACガーディアンズ

所長 野口 友子

これから成年後見制度は変わっていきます。後見・保佐・補助の三類型の見直し、適切な時期に必要な範囲、期間で利用できるようにすることが検討されています。

どのように制度が変わっても、本人の話を聴き、本人を知ること、本人がどうしたいのか、本人の意思を見誤らないこと、できないとあきらめず、どうしたらできるかを考えていくことが大切だと考えます。この研修会では、様々な職種の方々の講演を聴き、それぞれの立場が変わっても感じていることや課題は、変わらないと思います。多職種で連携する、チーム支援が重要と言われていますが、これがなかなか難しいと感じ

じます。本人が中心に、本人の思いが、どうしても実現できるのか、より良く生きるための支援、地域づくり、仲間づくりを目標に、私自身も気づく力を身につけられるよう、研鑽していきたいと思えます。研修に参加させていただき、ありがとうございました。



「意思を尊重するということ」

船橋障害者相談支援事業所連絡

協議会(FASINET)

副会長 佐賀 麻実子

この度はシンポジウムにて、相談支援の立場から意思を尊重するという視点でお話をさせていただきました。私たち相談支援専門員は、ご本人の思いを実現するための支援方針や目標、サービス内容等を盛り込んだサービス等利用計画書を作成します。障害のある方が地域の中で、自分らしく安心して暮らせるようにするために、ご本人の思いや考えを丁寧に聴き取り、思いを形にするサポートができればと考えます。

相談支援の実践において、相談支援専門員は地域で生活を送る上での要となつているのか、ご利用者に相談支援はどのように届いているのか、船橋市の相談支援システムはどこま

で機能しているのかと葛藤の日々です。シンポジウムを終えて、相談支援の要はまさに「ご本人の思いを実現すること」に尽きると改めて実感しました。そのためには、意思形成のためのプロセスを大切にしながら、ご本人を主体としてチームで関わることを心に留めて支援してまいります。

「自分の人生は、自分で決めること」にこそ価値があります。どこで誰と暮らしても、ご本人の意思を尊重し、丁寧に寄り添いながら、一歩でも二歩でも自己実現に向けた実践を進めていきたいという思いを新たにしました。

この度は、貴重な機会をいただきました。大変ありがとうございました。



「誰もがありのままに
その人らしく地域で暮らす」

習志野圏域障害者グループ

ホーム支援ワーカー

森井 真理

1989年障害者グループホーム(以下GH)が精神薄弱者(現・知的障害者)地域生活援助事業として制度化されました。35年が過ぎ障害者GH入居対象は知的障害の方に加え、精神疾患・身体障害・難病・18歳未満の児童・65歳以上の介護保険対象者・医療観察法対象者等、支援に専門性が求められてきている現状です。

その中で最も求められるべきは「人権擁護」。しかしGHでは「ルール」が定められ、守れなければ退去を余儀なくされるケースも多くあります。

第八次千葉県障害者計画ではGH等の定員を、令和8年

度末に15,000人(令和4年度末10,410人)と掲げており、まだまだGHは足りない状況ですが営利法人が増え、入居者さんフアーストの支援が行われているかには程遠い状態です。

令和6年度からGHに対し「地域連携推進会議」の開催が義務化されます。開かれたGH作りには是非地域の皆様に関心を持っていただき、障害がある方にも安心して生活ができる居場所が確保される、優しい地域作りを船橋市から発信していきたいと思えます。



「シンポジウムのお礼」
船橋市放課後等デイサービス
事業所協議会

会長 荒木直也

船橋福祉相談協議会の皆様、並びにご関係者の皆様には日頃より大変お世話になっております。

先日のシンポジウム「どこまで実現、私の思い？」に参加させて頂きましてありがとうございます。会場の参加者の皆様には、アンケートなどを通じて新しい考え方や、視点を教えてもらい、その後も考えること、悩むことと多々ある毎日です。また、登壇者の皆様には、新しい知識などを教えてもらい、これもまたその後の仕事に役立させてもらっています。

仕事の内容、役割、あるいは業種などの差異よりも、それぞれの方の人間性などから得ら

れるものが多いことを改めて実感しました。そして、一人で悩みがちになる福祉の世界のなかで、この街にはこんなにたくさんの福祉にかかわる人たちがいることに、元気をもらいました。

シンポジウム後の親睦会では、たくさんの方とその名の通り親睦が深まり、これもまた明日からの大きな活力となりました。

結局、何かを伝えることは出来なかつたけど、これからをもに考え、ともに歩む方々との出会いの場となり、シンポジウムのタイトルと同様に私自身の自己実現に向けて、参加させて頂いたこと自体が何よりの会でした。皆様、本当にありがとうございました。



Thank you

「今回の経験を糧に」

NPO法人船橋障害者

自立生活センター

職員兼相談支援専門員

小松 直勝

これまでも船橋障害者自立生活センターの講演会で司会進行を何度も担当してきました。

人前で話すことには慣れていましたし、司会という立場上、自分の話を聞きに來ているわけではないので、特別なプレッシャーや緊張を感じることはありませんでした。司会進行を務める際の「小松」という名前は知っていただいているものの、それ以上の役割を求められる場面はありませんでした。

しかし、今回はシンポジストとして登壇する機会をいただき、小松が話したテーマは「障害福祉の変遷」。自身が脊髄小

脳変性症という難病を抱える

相談支援専門員として、障害福祉の歴史や現状を学び直す作業は、自分の経験と向き合う機会にもなりました。準備を進める中で、過去の制度や取り組みを調べることで、当時の社会背景が障害者支援に与えた影響や、その変遷の重要性を知ることができました。それは単なる知識の確認にとどまらず、価値観や課題がどのように変化してきたのかを深く考える貴重な学びとなりました。

当日は緊張を覚えつつも、準備してきた内容を一つ一つ丁寧に伝えることを心がけました。発表を終えた後には、安堵感とともに達成感がこみ上げ、この挑戦を通じて自分の成長を強く感じました。今回の経験を糧に、これからも学びを深め、障害福祉の現場で少しでも役立てるよう努力を重ねていきたいと考えています。

「シンポジウムを終えて」

基幹相談支援センター

「ふらっと船橋」

副所長 須崎 郁生

令和6年度シンポジウム

「どこまで実現、私の思い？」に船橋市健康福祉局長はじめ障害福祉課の皆様、事業者の方々、地域の皆様のご参加を賜り熱く御礼申し上げます。

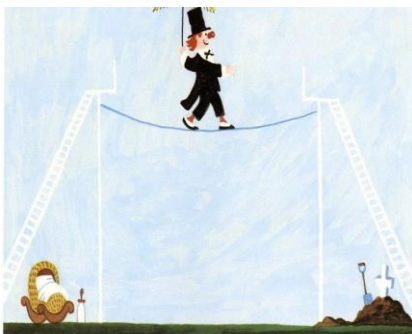
当日は、昔なかった事業としてグループホームの話をさせていただきましたが、今グループホームがなかったら、ふらっと船橋にご相談をいただいている多くの方々の支援に行き詰まっていると思います。

以前の船橋福祉相談協議会ニュースに退職された障害福祉課の渋谷課長補佐が、デンマークの事例をあげて、日本の福祉施策が混沌としている状況とデンマーク市民の障害に対する理解の深さについて書か

れていました。

障害者（児）の生活の場を考えるとき、多くの市民の方々の理解を深めていく努力とコンセンサスを作っていく中で、障害者（児）の福祉制度が整備され、今支援に行き詰まることが多い、他害がある方や強度行動障害のある方の支援も進んでくるのではないかと思います。

ふらっと船橋は、ご相談者を通して一般市民の方々と接する機会があります。少しずつでも障害者（児）の生活の場について、普段障害者（児）と関わる機会が少ない市民の方々のコンセンサスづくりに努めて行きたいと思っています。





川端氏



宮代氏

講演会・
シンポジウム
のひとつ



荒木氏



野口氏



小松氏

R6年11月12日 講演会・シンポジウム どこまで実現、私の思い？

ご来場くださいました皆様ありがとうございました。
次年度も講演会・シンポジウムの開催を予定して
おりますので、是非ご参加ください。



佐賀氏



須崎氏



森井氏

